

農作物病害虫発生現況情報（8月） ねぎ編

1 さび病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は50.0%（平年29.3%）で平年より高かったが、発生程度中以上の圃場は確認されなかった（平年8.4%、図1）。

2 べと病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年3.2%、図2）。

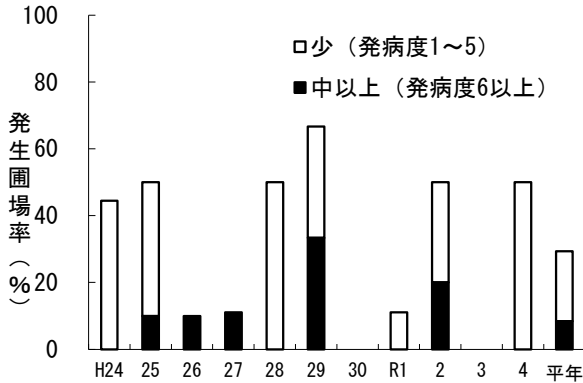


図1 さび病の発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

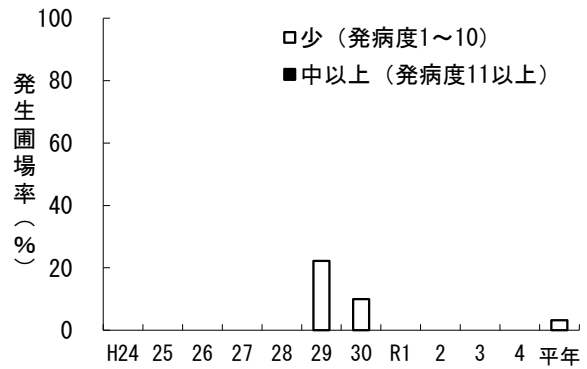


図2 べと病の発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

3 黒斑病・葉枯病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は100.0%（平年74.7%）であり、平年より高かった（図3）。

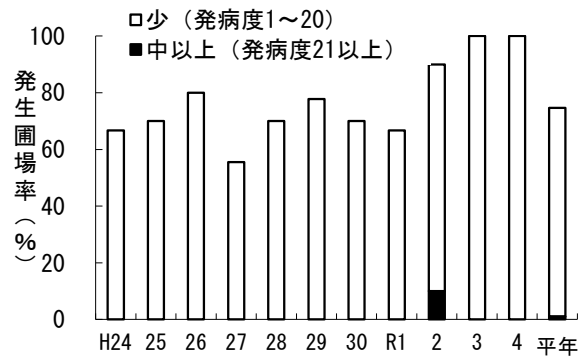


図3 黒斑病・葉枯病の発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

4 ネギコガ

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は40.0%（平年55.2%）であり、平年よりやや低かった（図4）。

(2) 時期別の被害葉率は、8月上旬・下旬ともに平年より低かった（図5）。

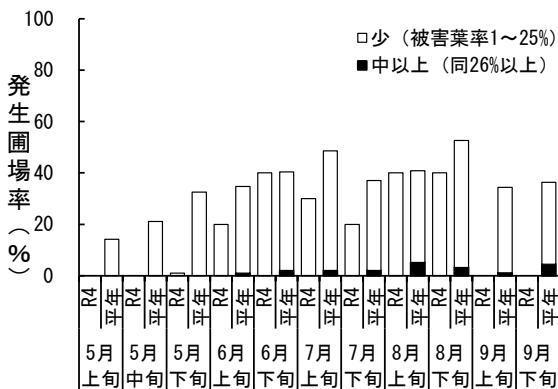


図4 ネギコガの発生圃場率の時期別推移

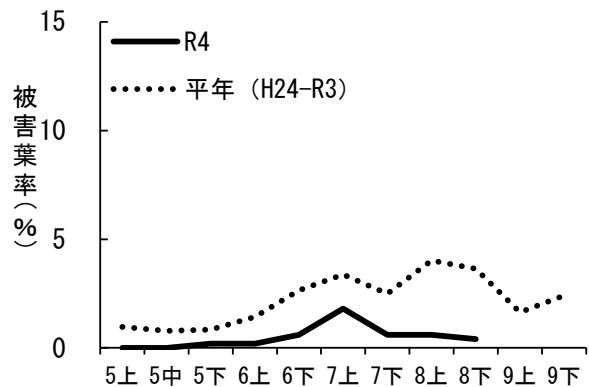


図5 ネギコガ被害葉率の時期別推移

5 ネギハモグリバエ

- (1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は80.0%（平年77.2%）であり、平年並だった。被害程度中以上の圃場は確認されなかった（平年31.2%、図6）。
- (2) 時期別の被害度は、8月上旬・下旬ともに平年より低かった（図7）。

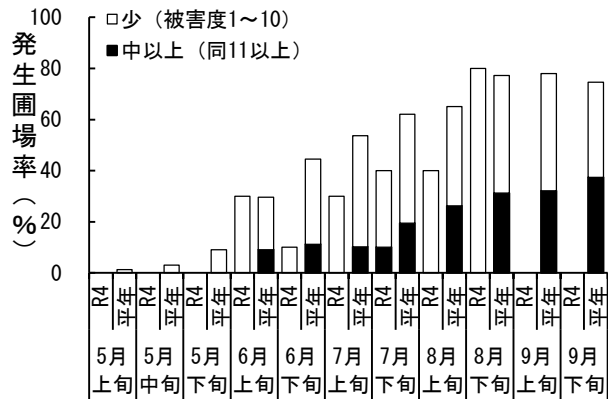


図6 ネギハモグリバエの発生圃場率の時期別推移

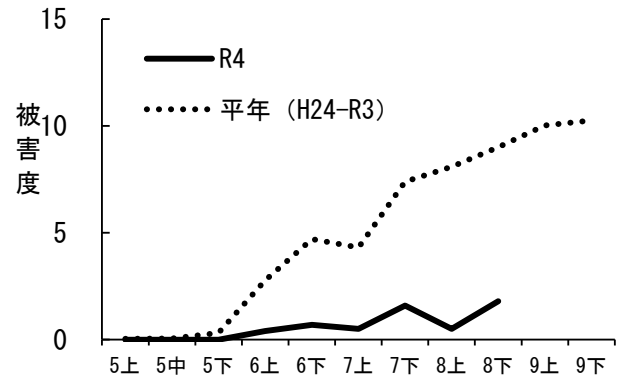


図7 ネギハモグリバエによる被害度の時期別推移

【被害度】調査株の被害程度を甚・多・中・少・無の5段階で評価し、次式により算出

$$\text{被害度} = \frac{(\text{甚の株数} \times 4 + \text{多の株数} \times 3 + \text{中の株数} \times 2 + \text{少の株数})}{(\text{調査株数} \times 4)} \times 100$$

6 ネギアザミウマ

- (1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は100.0%（平年87.8%）、発生程度中以上の圃地率は80.0%（平年50.9%）で、ともに平年よりやや高かった（図8）。
- (2) 時期別の被害度は、平年並に推移している（図9）。

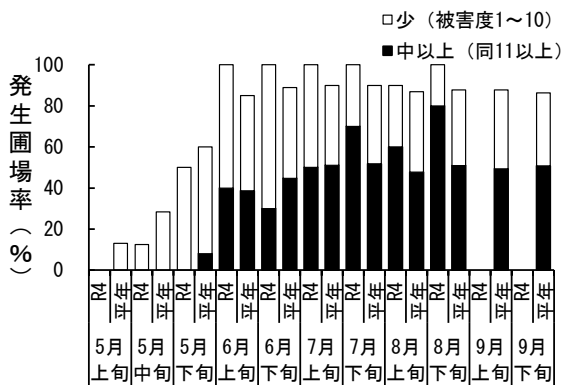


図8 ネギアザミウマの発生圃場率の時期別推移

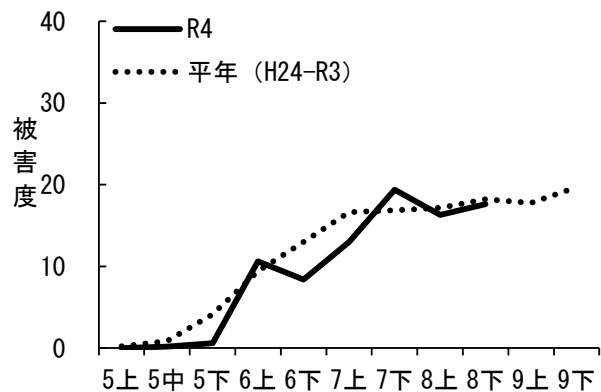


図9 ネギアザミウマによる被害度の時期別推移